

同じことなり、

〔貞要集 一〕茶桶箱茶湯の事

一肩衝半切茶入に濃茶を入、尤袋に入茶桶箱の内へ手前の方に入置、塗棗に薄茶を入、和巾にて包箱の向の方に入置、架の上に堅に上ゲ置なり、但二重架には下の架に上ゲ置也、四疊半には水指の前に堅に置合、茶碗はすこし壁際へはづし、莊合也、則繪圖に記す、略○圖

一茄子、丸壺、柿茶入、總而せひのひくき茶入のときは、薄茶は中次、又は藥窓、雪吹等用る也、宗易作意にて小楸に濃茶を入袋に入れて薄茶を大楸に入れて用ひる事如何、棗中次に入申たき事なり、

一中立の中に、水指如法置合、前に茶桶箱置合せ、茶立前は茶碗に三品仕込持出、左の壁際に置、水覆に蓋置柄杓組て持出、蓋置定座へ直し、時宜をして茶碗如法直し、茶桶箱引寄、我前に置、蓋を取、ふたは左の方に箱のごとく置、茶入取出し前に置、棗を箱の中へ直し、蓋をして水覆の向へ置合、扱茶入袋を取、和巾にてふき、定座へ直し、茶立前は常のごとなり、又大目架にも茶桶箱置合ル、其時は茶入取出シ、元のごとく架へ上ゲ置、略○中

一何れの小座鋪にても、道幸有之時は、茶桶箱を道幸の中へ入置、此時は茶碗を水差の前に置合、立前は替る事なし、

一濃茶二種、一度に立る事有之、又濃茶薄茶を一度に立る次第六ヶ敷事也、口傳濃茶を兩種調る時は、茶桶箱の中の茶入を取出し、前に記す通にして茶立出し、客茶を吞終り、茶碗を見ずに返し、今一種給可申と挨拶有也、其時茶の禮をして茶碗を洗申時、客より湯を御出し候様にと乞申也、此湯を出し様に效有り、下洗して茶巾にて茶碗をふき、また湯を入さつと捨、熱くまいり候や、ぬるくまいり候やと亭主たづね申時、あつく御出しあれなどとこのみ申也、其時湯をすこし入て出シ、釜のふたをえめ置、客湯を吞仕廻申内に、茶桶箱の棗を取出し、箱は水覆の向に置、和巾にて